

# 平成 28 年台風 10 号豪雨により北海道十勝地方 で発生した大規模洪水および土砂災害 (速報)

七山 太<sup>1)</sup>・高橋 浩<sup>1)</sup>・重野聖之<sup>2)</sup>

平成 28 年 8 月 28～31 日の台風 10 号豪雨によって、北海道十勝地方で発生した大規模洪水・土砂災害の実態ならびに構造物のダメージに関して、10 月 14～20 日の調査時に現地視察する機会を得た。その被害状況を以下に簡潔に報告する。



第 1 図 岩内川流域の明星橋橋梁の被災状況。橋梁の上流側 (右の写真) では、洪水流による側方侵食により新たな鮮新世最末期～前期更新世の長流枝内層の露頭が河床に出現し、その上方では小規模な斜面崩壊によって中期更新世の光地園礫層が露出した。



第 2 図 美生川下流域の状況。写真右が下流側、美生川の本流から溢れ出した洪水流が牧草地に氾濫し、上流から流されてきた砂礫や流木がその上面を覆っている。

1) 産総研 地質調査総合センター 地質情報研究部門 2) 明治コンサルタント株式会社本店



第3図 豊似川上流の沢筋で発生した石礫型土石流の産状。崩壊したのはホルンフェルス化した古第三系中の川層群である。土石流によって大規模な倒木が起こったことが読み取れる。



第4図 太平洋に面した野塚海岸では、多量の流木が漂着していた。これらの流木の多くは、楽古川や豊似川の流域から流失したものと思われる。遠方に見えているのは日高山脈最南端から襟裳岬にかけての山並み。